



量子物理学・ナノサイエンス第 73 回特別セミナー

ヒッグス粒子発見後の素粒子物理の展望

講師 : 浅井 祥仁 教授

東京大学 大学院理学系研究科 物理学専攻

日程 : 2020 年 1 月 10 日 (金) 16:00-

場所 : 本館 2 階 284A 物理学系輪講室

概要

2012 年のヒッグス粒子の発見は、素粒子物理学に何故、このエネルギースケールが存在するかの新しい謎を突きつけると同時に、従来考えられていた「自然な超対称性モデル」を否定し、素粒子研究のみならず、宇宙物理学にも大きなインパクトをもたらした。

本講演では、ヒッグス粒子発見の意味を考え、次世代の素粒子実験について考える。現在、計画が議論されている FCC 計画 (Future Circular Collider 計画、一周 100 km) の超大型加速器実験から、突破口と期待されている暗黒物質の総合研究や、量子センサーなどの新しい実験分野の開拓などについて考える。

連絡教員 物理学系 陣内 修 (内線 2081)